

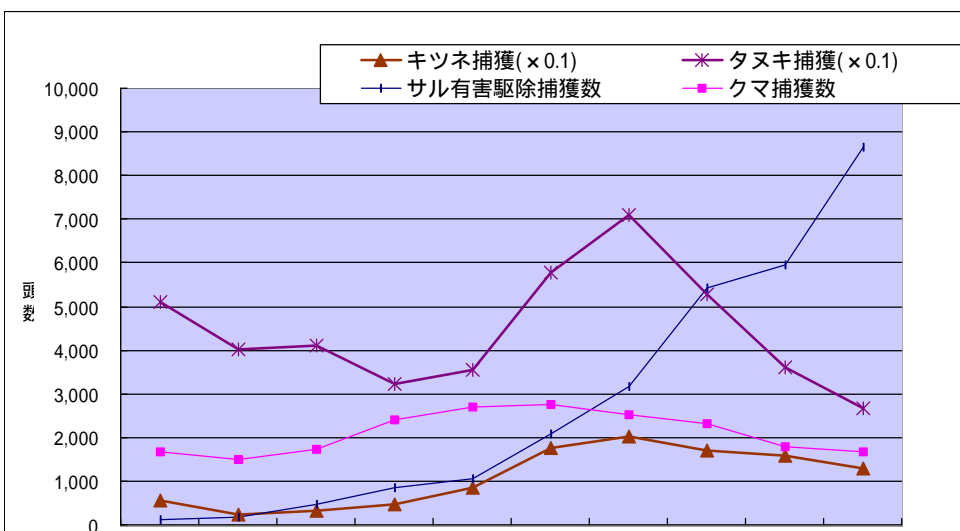
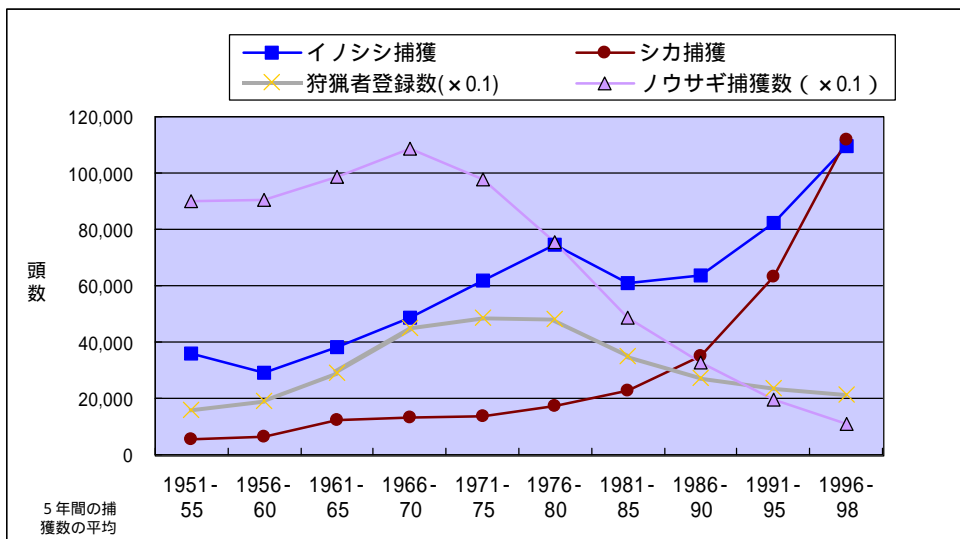
主な哺乳類の捕獲数の推移

シカ、イノシシの捕獲数については、狩猟者登録数の減少に対し、近年捕獲数が激増傾向にある。シカは捕獲数の3割、イノシシは捕獲数の2割強が有害駆除によるもの。

ノウサギの捕獲数は1960年代をピークに減少の一途をたどっている。

サル有害駆除はシカ、イノシシと同様に近年激増傾向にある。

タヌキ、キツネの捕獲数は、1980年代前半をピークにともに減少している。



主な鳥類の捕獲数の推移

キジ目狩猟鳥の捕獲数は狩猟者登録数とともに推移している。狩猟対象としての資源性が高いため、高い捕獲圧が常にかかっていると想定される。ウズラの捕獲数の激減、コジュケイの捕獲数の近年の激減が特徴的。

スズメ目では、スズメ類の捕獲数が特に多いが、1960年代から捕獲数は減少一方である。ヒヨドリ、ムクドリは1994年に狩猟鳥となり、ヒヨドリについては捕獲数が急増している。カラス類については、近年は捕獲数の2割強を有害駆除が占めている。

